

令和五年度新入生二九一名の皆さん、入学おめでとう。保護者の皆さまにおかれましても今日この日を迎えられ感慨もひとしおかと拝察いたします。心よりお祝い申し上げます。また本日は、関西金光学園佐藤学園長先生、同窓会会長様・PTA会長様のご臨席を賜り、無事入学式を挙げていきますこと、教職員一同を代表し厚く御礼申し上げます。

さて、新入生の皆さん、本日入学を許可致しました。義務教育を終えいよいよ高校生です。気持ち新たに、高校生活の目標や将来の夢は抱いているでしょうか。この三年間の新型コロナウイルスとの戦いもようやく沈静化し、光が差ししてきました。依然として終息とまではいきませんが、GW明けには五類感染症への引き下げとなり、社会生活・学校生活の中での取り扱いも新しい局面を迎えることとなります。生活様式も変化することでしょう。中学校時代に、十分な学習やクラブ活動、学校行事で出来なかったことや、今しかできない経験を、今日から始まる高校生活の三年間で大いに謳歌してほしいと願っています。

本校は、大正十五年に創立され、今年九十七年目を迎える伝統ある学校です。女子教育に始まり、現在では男女共学として二十五年目を迎えます。金光教の教えを根幹に、「天地自然や自分を取り巻くすべての人々への感謝の念を持ち、自分を大切にし、他人を大切にし、将来、世のお役に立つ人間を育てるための教育を徹底する。」ことを建学の精神として、心の教育を柱としています。入学に際し、新入生の皆さんには、この建学の精神を心に留めておいてください。

私は、教員になって三十五年目、この学校に奉職して三十年目の保健体育の教員です。小さい頃から運動が得意だったこともあり、小学校六年間は、陸上自衛隊駐屯地内で柔道を習い、稽古はもちろん、何より大切な礼儀作法や忍耐を学びました。中学校から大学卒業までの十年間はバスケットボールを通じて、多くの事を学びました。中学・高校の恩師には練習から学校生活まで非常に厳しい指導を受け、大学では体育大学特有の厳格な上下関係のもと四年間を過ごしました。楽しいことよりも、厳しく、辛く、悩む日々が多い十年間でしたが、そこで培われた経験や、多くの人との出会い、繋がり、支えがあつて、今日の自分があると思っています。

新入生の皆さん、高校生活は将来の礎を築く上で大切な期間です。何かに打ち込むことによって、嬉しいこと、楽しいことだけでなく、辛く苦い経験もするでしょうが、その経験が成長の度合いを早めることにもなるでしょう。充実した時間が過ごせるよう日々の努力を惜しまないでください。

皆さんはすでに承知していると思いますが、「民法が一部改正」され、成人年齢が諸外国並みに十八歳に引き下げられました。高校三年生の誕生日を迎える時には、成人⇨大人になるということを意識し、自覚してほしいと思います。そこには大きな責任が伴います。高校生活の間に社会へ出るために必要な人間形成・人間力を身につけるため、実践してほしい三つのことを申し伝えます。

一つ目は、基本的生活習慣の確立です。コロナ禍で生活リズムが乱れていたり、スマホやゲームに多くの時間を費やしていたり、朝ご飯を摂らなかつたりしていませんか。今日が区切りの日です。時間管理を心がけること、食事・睡眠をしっかり摂ること、体調管理をすること、授業に集中すること、しっかりと身体を動かすことも重要です。まずは、規則正しい生活習慣を身につけてください。

二つ目は、高い規範意識と社会に通じる礼節を身につけることです。二年後には成人となります。社会のルール・学校のルール・公衆道徳を守ること。併せて、礼儀・挨拶・節度ある行動・言動を身につけてほしいと思います。日々徹底、実行してください。

三つ目は、聴く力を養うこと、自分で考える習慣を身につけることです。その力が、自分自身の能力・個性・長所を伸ばし、将来の夢や進路に繋がっていくことでしょう。以上、三つを心掛けてください。

世界では未だに戦争が絶えません。また、今年二月に発生したトルコ・シリア地震では、五万人を超える死者・行方不明者が報告されています。こうして入学式を迎え、平穏で当たり前のように高校生活が始まることのありがたさを噛みしめてほしいと思います。

人は誰しもが一人で生きていくことはできません。家族・親類・友人・学校の先生・先輩・後輩、多くの人のお陰で生かされていることへの感謝を忘れず、誰からも愛され、実りの多い高校生活となるよう願っています。

最後になりますが、保護者の皆さまにおかれましても、お子さまの高校三年間は、今後の人生において重要な時期となります。思春期の子どもを持つ悩みも尽きないでしょう。どうか、本校教職員を信頼していただき、相互理解を深め、共に大人として、時には見守り、時には厳しく接し、成長を手助けできる関係でありたいと願っております。これから三年間、様々な場面におきまして、ご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

令和五年四月五日

学校法人 関西金光学園 金光藤蔭高等学校 校長 武田 充広

理事長『告辞』

このたび入学されました新入生の皆さん、そして保護者の皆さま、おめでとうございます。学校生活におきましては、コロナ以前の体制へ、すべて戻っているわけではありませんが、ともあれ今日このように、金光藤蔭高等学校の入学式が挙行できますことを、共に慶ばせて頂きたいと思えます。

本校は、金光教の教えに基づく建学精神をもって設立された、金光教ゆかりの学園であり、九十七年の長い歴史と伝統を備えた学校です。今日からスタートする新入生の皆さんの学園生活を、ここからしっかりと見守ってまいりたいと思えます。

さて、ある新聞連載のエッセイで、『パンダはどこにいる?』というタイトルの絵本が、紹介されていました。主人公のパンダは、自分がパンダであることに気づいていない、そういうパンダの物語だそうです。自分のことに気づいていないパンダは、なんとかパンダになろうとして、木登りの練習とか、一生懸命に色んなことに挑戦し、努力する中で、ふとした拍子に、水たまりに映った自分の姿を見て、本当の自分を発見するわけです。自分とは、どういう自分であるのかを、自覚するのですね。

エッセイの筆者は女性の心療内科医で、この絵本について、「絵本だけれど、子供向きではない」と、少し変わったことを言っていました。「大人が読めば、どうなるか。この内容から何を読み取るかで、その人がどういう人間か、分かる気がする」と、こう言うのです。

少し大層な言い方だなあ、という印象を受けたのですが、筆者がそんなふうにした理由が分かりました。筆者は心療内科医、つまりお医者さんですから、ふだん多くの相談者と接し、色んな訴えを聞いています。そうした相談者には、絵本のパンダと同じように、本当の自分の姿が見えていない人がたくさんいる、ということなのです。「自分はダメだ。もっと足りないところを直さないとダメだ」。こんなふうに悩んでいる人の場合、自分の持っている、きらりと光る良いものは全く目に入らず、足りないところばかりが目に入るようだ、と指摘されていました。

そこで、「自分はダメだ」と嘆いている相談者に対し、筆者は「それじゃあ、こうい

う人がいたら、あなたはどんなふうに声をかける？」と聞くことがあるそうです。「貧しい環境の中、頑張って勉強して、バイトしながら卒業、就職して実家の家計を助けている、そんな人がいたらどうか」と尋ねてみる。するとその方は必ず「頑張ってるね。えらい。体を大事にして自分をいたわって」と答えると言います。実はこれは、筆者が客観的に見た、その相談者自身の物語なのです。

「えっ、そうなのか」と思いました。他人に対してならかけられる「えらい」という言葉が、自分に対してはなかなか与えることができない。自分が見えていないと言えうけれど、本当にそうなんだなと分かりました。まとめて言えば、こうなるそうです。「人というのは、自分を客観的に見ることができなものである。だから自分を過剰に大きくとらえている人もいれば、反対に、自分を過剰に小さくとらえている人もいる。自分の悪いところを全く見ない人もいるけれど、逆に、自分の良いところを全く見ない人もいる」。こういう指摘には、そういうことなのかと頷かされます。

鏡に映すように、本当の自分の姿を知ることが大切なのだあと、思わされました。自分の悪いところも見えていないといけないし、自分の良いところも見えていないといけない。それが自分を知り、自分を生かすということなのです。

本学園では、心を豊かにするという教育精神を、今日まで大切にしてきました。短所も抱えている自分を知り、反省と改まりに向かうことが心を豊かにするのでしよう。そしてまた、天から恵まれた、きらりと光る自分の個性に気づき、その個性を尊重し大切にしていくなことが、同じように心を豊かにするのでしょうか。パンダの話から学んだ、「自分をよく見て、自分を知る」ことの大切なところを一つ申し上げて、縁あって本校の門をくぐられた皆さん方への、告辞といたします。

令和五年四月五日

学校法人 関西金光学園 理事長 湯川 彌壽善